

5-9

主題 ケアシートでケアの統一を。

ケアの統一

副題 個別ケアを深めケアの統一をはかろう。

個別ケア

研究期間 10か月

事業所 特別養護老人ホーム 第2育秀苑

発表者：吉田知道（よしだ ともみち）

アドバイザー：

共同研究者：今江祐喜 伴野絵美 小池由希 棚木春樹 川久保真帆

電 話 03-3991-0523

メール E-mail : iku2-tokuyou@ikushukai.or.jp

FAX 03-3991-0570

URL URL : http://www.ikushukai.or.jp

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

平成10年に開設した入所50名、ショートステイ6名の施設です。
「for others」を基本精神として「安心・安全で快適な暮らし作り」を実践しています。

《研究前の状況と課題》

ワーカーにより細かなケアのばらつきがあった。

指導方法・内容が各個人の経験に頼る部分が大きいため、職員により少しずつ説明の差異があった。

新人職員等、教わる側が、どれが正しいのか、どれを選択すればよいのか判断できず、混乱していた。

《研究の目標と期待する成果》

職員によるケアの違い、ムラをなくすこと、教える側・教わる側ともに、指針があることで混乱を避けることが出来ると同時に、ケアの統一を図ることを期待し、各利用者のケアシート作成に取り組んだ。

《具体的な取り組みの内容》

- ・ケアシート作成の発案。
- ・施設サービス計画書のアセスメント項目に従い、特に統一、周知すべき項目をピックアップしていく。
- ・サービス向上委員会（7名）を中心として毎月各ユニット1～2名の利用者をピックアップし、各ユニットでケアシートを作成。
- ・毎月行われるサービス向上委員会にて、検証・追加修正を行う。
- ・6ヶ月で全利用者（50名）分を作成。

《取り組みの結果と評価》

- ・これまではっきりしていなかった部分（各個人のやり方まかせ）が、ケアシートを作成する過程で、改めて話し合う機会を持つことができ、統一された。
- ・口頭でしか説明されていなかった内容が書面化されたことで継続的なサービスの提供が可能となった。
- ・ケアシートが個別ケアの指針となり新人職員の混乱をなくすとともに、他職員にもケアを統一するツールとなりつつある。

《まとめ》

ケアの統一を図ることを目的として始まり、徐々に達成されつつある。
同時に、ケアシートの作成という取り組みを行ったことで、利用者一人ひとりを、改めて見つめ直すことができた。
個別ケアを深めることのできた機会にもなった。

《提案と発信》

【メモ欄】